

11月号

第370号

# いっしん

平成27年(2015年)

心配は  
神にまかせて  
一筋に

祈り祈りて  
みかげかかふれ

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 / FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会 二代教会長 安武文雄大人 20年祭 12月23日(祝)  
甘木親教会初代教会長安武松太郎大人65年祭 平成28年 2月17日(水)  
加治木教会 布教65年記念大祭 平成28年 5月29日(日)



鹿児島県川薩・始良地区と熊本県球磨地区の参拝者 10月3日

御本部

## 生神金光大神御大祭

に参拝

朝夕はすっかり秋らしく涼しくな  
ってきた十月三日(土)・四日(日)  
爽やかな秋晴れに恵まれ、加治木教  
会から八名の参拝者は、川薩地区・  
球磨地区の教会の皆さんと一緒に、  
大型貸し切りバスで御本部生神金光  
大神御大祭に参拝させていただきました。  
した。

バスは、串木野教会を出発点とし  
て、宮之城教会、大口教会、人吉駅  
前で参拝者が乗り込んで三十名で御  
本部生神金光大神御大祭に参拝のお  
かけを蒙らせていただきました。

今回は、貸し切りバスで参拝だっ  
たので、経験を積まれた運転士の運  
転であった上に、途中の渋滞にも遭  
わず、午後四時三十五分の金光様のお  
退けお見送りにも間に合わせてい  
ただきました。

宿泊は、ご霊地の光風館でしたの  
で、夜の教話も、朝の金光様のお出  
ましも、おかけを蒙らせていただく  
ことができました。(次ページ)

会堂広前で仕えられた、夜の教話  
は、岡山県の児島赤崎教会の藤井順  
二先生でした。脇殿で聴かせていた  
だきましたため、スピーカーからの  
音がとぎれとぎれでしたが、教祖様  
の「おかげの中に生まれ、おかげの  
中で生活をし、おかげの中に死んで  
ゆく」という教えや、片膝下切断  
という事故に遭われたお母様の、事  
故後の、お礼を土台とされたご信心  
についてお話し下さってあることが  
伺えました。(昨年の甘木親教会記念大祭「教話会」  
のJVC撮影のJVCの記録映像)

教主金光様  
お退けの  
10/3



ご祭典  
10/4



翌朝三時四十五分の、金光様のお  
出ましもお迎えすることができまし  
た。今回は、貸し切りバスでの参拜  
でしたので、運転の御用に当たる人  
たちが睡眠不足になることを心配す  
る必要もありませんでした。  
四日の、ご祭典前の教話は屋久島  
教会長 岩川信雄先生で、昭和五十四  
年に屋久島に新規布教されて以来の  
ご体験、特に四代金光様のお取次ぎ  
下されたご内容により「屋久島の土  
になる決心を固められたことや、現  
在の御用姿勢についてお話しされま  
した。

教団墓地にて  
奥津城参拜  
10/3



人吉駅前 10/3



ご祭典は、教主金光様ご祭主のも  
とに、厳かに麗しくお仕えになられ、  
教祖生神金光大神様の御徳を称えら  
れるご内容の祭詞をご奏上になられ  
ました。

今年度、鹿児島地方から、学院に  
入学され在学中の三名は、宮之城教  
会の松井久子さんは受付で、西鹿児  
島教会の田中康博さんは殿低にて補  
助賛者として、串木野教会の満留瞬  
さんは駐車場係として、御用に励ん  
でおられました。

また、学院講堂では学院生による  
「書華道展」が開かれており、見学  
に行かれた参拝者は、帰りの車中や  
二十二日の共励会で鑑賞した感想を  
お話しされてありました。  
正午過ぎにご霊地を出発した大型  
貸切りバスは、一路九州の南端を目  
指し約八時間で大口教会に到着し、  
乗用車に乗り換えて午後九時三分  
頃に無事加治木教会に到着させてい  
ただきました。

小倉教会  
**布教百三十年記念大祭**  
 参拝

実りの秋、加治木教会の親教会の親教会、金光教の「九州開道の祖」桂松平先生が開かれた小倉教会では、十月二十日（火）に、布教百三十年記念大祭が仕えられ、鹿児島県内の三教会（大口教会・宮之城教会・加治木教会）合同でマイク口バスにて参拝させていただきました。

加治木教会をまだ暗い午前五時四十分に出発しました。

運転は、上田和也さん（加治木教会）・松井信継先生（宮之城教会）・矢野章先生（加治木教会）の三人交代で、何度も交代ができ疲れも少なく、安心・安全でした。

予想よりも早い、午前十時前に小倉城内にある駐車場に着き、ここから小倉教会までの約二百メートルは小倉城内の天守閣の下を通過して堀を



小倉教会前にて 10月20日

渡り、小倉教会の玄関前に出ました。ご祭典の三十分ほど前にお広前に入りましたので、空席の残っていたお広前の参拝者席に座ることができました。

ご祭典が、厳かに肅々と美しくお仕えにられました。

祭員には、甘木親教会の若先生、国東教会の大武先生や、新田原教会の鬼塚先生方も御用されておりました。

ご祭典は、教主金光様のご長男の金光浩道先生が、ご祭主をお仕えになられ、ご祭典のご挨拶がありました。

ご祭典終了後に、小倉教会長 桂真津子 親先生のご挨拶で、

《ある先生が、銀座教会の初代の湯川誠一先生に「おふとん畳ませていただきますよ」と言われると「あ

つかわんといてんか」と言われ「布団に入って休むとき、天地の中に入って（神様に）守られて休ませてい

ただいたのだから、お礼を申して畳むのだから…」とおっしゃられたとのこと。このようなお話を私が学院生時代にもお話しになってあったはずですが、目の前に宝物があっても聴く耳がないとわかりません。皆さん、お布団の中に入るときは「天地の中に守られて休ませていただきます」と言って中にお入りください、起きてからは「天地の中に守られて熟睡させていただき有難うございました」と、お礼を申しましょう。《一部分）と、み教えくださいました。

尊くありがたいご内容のご挨拶を拝聴させていただきました。

帰途も高速道路を一路南下し、無事、午後六時三十分に加治木教会に到着させていただき、尊い参拝のかけを蒙らせていただきました。



小倉教会 向かいにある 小倉城内にて 10月20日

加治木教会  
天地金乃神御大祭 ご教話 平成二十七年  
五月三十一日

「ここまでのお礼」と  
「ここからの願い」

⑤ …… ①～⑥

講師 大口教会長  
安武秀信 先生



更に、今年（平成二十七年）に入り  
まして、二月のことです、ある先生か  
ら手紙を頂きました。

私は、「この先生とはそんなに親しく  
ないのです、年賀状のやりとりをする  
くらいで、年に一回も顔を合せないの  
です。ずっと前にその教会の会社に  
お話しに行ったときに、親教会長とし  
ておみえになっておられたときに、言

葉を交わしたくらいで、あとは親しく  
言葉をお交わしたことはありません。

その先生が手紙を下さいました。ど  
んな手紙かというと、分厚い手紙に事  
詳しく書いておられました。

簡単に説明しますと「平成二十六年  
の春頃より胃腸の調子が悪く検査を  
受け、十月になってS字結腸のところ  
に二センチの癌が見つかり、さらにそ  
の上に、もっと大きな癌があり、御本  
部の御大祭が終わり、自分のところの  
御大祭が終わり、十一月三十一日手術  
台に上り、十五時間かかり、病院の先  
生もさすがに、疲れたと仰るほどで、  
このような癌になるまでどのくらい  
の日数がかかるのかを尋ねると『ホリ  
ープから癌化して五・六年でしょう』  
と言われ、手術の費用は百八十円かか  
りましたが、七十五才になっていたの  
でありがたいことに一割負担で済ん  
だ。癌は早期発見、早期治療です。気  
を付けて…。」という内容でした。

私も五・六年経つと、その年齢にな  
るのです。

これも神様が「お前はこうなんだ  
ぞ」とお示し下さったと思うのです。

☆

そして、その手紙のことを家内に話  
すと、家内から「父が、秀信さんは直  
腸がんになるから、おかげをいたたく  
ように、と言われておりました」と言  
うのです。

私は「それを私に言ったことがある  
か…」と尋ねると「何回も言いました  
よ」とのことでした。

奥さんの言うことを「あー、わかっ  
た、わかった」と言うくらいだったの  
でしょう、ぜんぜん記憶にないのです。  
山崎先生から直接言われたのなら、  
心に残っていたのでしょうが、家内が  
言ったものですから聞き流して心に  
残っていないのです。

津川治雄という方に教祖様が「人間  
は、生まれるときに証文を書いてきて  
いるようなものである」とか「人間は  
皆生まれるときに約束をしてきてお  
る」と仰っております。証文や約束と  
いうことを今風に言えばDNA（遺伝  
子）と言ってもいいでしょうね。

教祖様の時代にはDNAや遺伝子  
などの言葉はなかったのですから、証  
文や約束と表現されたのかなと思ひ  
ます。遺伝子の中にはいろんな情報が  
入っており、個人によって違いますよ

うが、調べてみると何歳くらいから頭が禿出するなども分かるといっています。つまりそれぞれ色々な運命的なものを持っていて生きているということ、それでは、そういうお互いが、どうすればおかげを頂けるのか、それも仰っております。

やはり津川治雄という方に「おかげを受けるのに巧者がある。だれでもおかげをいただいたら、そのありがたいということをいつまでも忘れないようにせよ。それを忘れたら、もういけない。後のおかげはいただけない。それさえ忘れなければ、おかげは思うようにいただける。」と、神様の恩を知っていけば神様は次々におかげを下されるということですね。

甘木の初代がそうです。最初に申しましたように、大きな土台、天地の感恩ということを悟られた。これを日々深めて行っておられる。

二十一万六千分というようなことを後になって計算してあるのですが、そういうふうにして天地の感恩というものを身近にして、じんとじんとん悟って行かれるのです。

そして、自分が小倉教会にお参りし

ておかげ頂いたことを最晩年まで話された。

同じ話だから、繰り返す、繰り返す、話されたのです。同じ話をしておるけれども「昨日の安武と今日の安武は違う」と仰っております。

日本橋教会の畑愷先生がそうだったんですね、日田教会で修行されておられたときに、甘木教会に何回かお参りされたけれども、全部同じ話で「またあの話か」と思っておるときに、甘木の初代が「私の話しは、同じ話に聞こえるかもしれないが、そう受け取ってもらっては困る、昨日の安武と今日の安武は違う」と話されたのです。それで畑先生はびっくりされたのです。へそいうことだったのかと…。

ということ、常に教祖様が仰った「巧者」、上手な部類です。神様のおかげを頂く一番上手な生き方を甘木の初代はなさったのです。



考えてみれば、いつも、最初に頂いた教えという、大きな土台を深めて行っておられる。

その上に乗っかる取次のおかげという土台をまたこれもずーっと深めて行かれた。

この二つの内容、天地の「恩」、生かされて生きておること、取次ぎ助けられたということ、日々深めて行かれる。

ですから、家内の父であります、甘木の初代からいえばお弟子さんであります、雑餉教会の前の教会長山崎政穂先生が「言葉は適当でない、表現もまったく適当ではないけれど」と前置きして「甘木の初代の先生は、一番早くおかげを頂ける道を教えて下さった」ということを仰っております。

私も考えてみますと、最初に申しま

した「ここまでのお礼と、ここからの  
願いの「ここまでのお礼」というこ  
とで、信心を整理して、十才のときが  
こうであった、十八才のときがこうで  
あったと、毎日毎日神様にお礼を申さ  
せていただくのは「おかげを受けるの  
に巧者がある、…おかげを忘れないよ  
うにせよ」と仰ったその巧者の真似こ  
とをしておるのです。

忘れない稽古を毎日毎日しておる  
のです。

そういう中で、こういうおかげを頂  
くのです。ほんとに自分では思いもか  
けないようなおかげを頂いて、万事の  
ご都合を頂いて、一晩で流れたわけで  
はないけれども、万事にご都合を頂い  
て、改めて命と健康を整えていただい  
たわけです。

それは教祖様が「巧者」と仰った内  
容を真似事ですが及ばずながら実践  
させてもろっておるからと思つので  
す。  
(次号へつづく)



## 雑感

教会長

「自分中心・自己中心の信心」から「親  
神様の御立場に立った信心」への手がかり  
・足がかりとして、み教え下さってある  
こととして…。

暗夜に光明を見出すことができるに  
は、親神様のみ心・思し召しをシッカリ  
とわかっていること、つかんでいること。  
暗闇のと真ん中に陥っていても、自分  
が悩んでいる以上に親神様は、お心をお  
悩ませられ、大きな愛情・親心・慈悲・  
ご慈愛をもってお祈り通して下されて  
ある、お恵み下さってある、愛を垂れ給  
うてある、先の幸せをお祈り下されてあ  
ることを知らねば。

☆

「おかげ」とは、

難儀の解消、問題解決、願うことがか  
なうこと「おかげ」。

難儀、問題、願うとおりにならないこ  
とも「おかげ」。

当たり前にあるもの、普通にあるもの、  
万物が尊いお恵み「おかげ」。

良いこと、難儀なこと、当たり前な普  
通なこと、万事「おかげ」でないことは  
ない。

お礼を申さないうちでよい、よいこと  
なし、まったくない。

## バンド練習会 始まりました。

全国大会「かがやけ大行進」  
と、御大祭での発表だけでなく  
社会奉仕（施設訪問）なども  
できるように、お役に立つ  
バンド隊活動とやらせていただ  
きましよう。

そのためには  
少しずつふや  
を、かさんでい  
ね、なませい  
お、みんまで、お  
せ、いこうだ  
しょう。



10月13日



「仙寿の里温泉」にて

# 南九州 「青年ふれあいフォーラム」

開催される

九月二十六日(土)～二十七日(日)一泊二日で、「仙寿の里温泉」(霧島市牧園町：瀬尾田鶴子さん経営)において南九州「青年ふれあいフォーラム」が開催されました。

鹿児島・熊本・宮崎の各県から四十名の参加がありました。

この南九州「青年ふれあいフォーラム」は、他県の連合会の青年と交流の場を持ちたいとの意見がもととなり「青年信奉者同士のふれあいを大切にしながら、本教信心の大切さ、すばらしさを伝え合い、求め合っていく」という願いをもって準備が進められてきました。

第一日目の信心発表後、ご挨拶にいられた瀬尾田鶴子さんから、手短な信心一代記を聴かせていただき、瀬尾さんを囲んで記念撮影をさせていただきますました。



仙寿の里温泉の女大將、瀬尾田鶴子を囲んで記念撮影 9月26日

今回は、青年信徒 竹之下康秀さん(鹿児島教会)、青年教師 田中朋子先生(三角教会)が「My信心Road」というテーマで信心発表をし、研修をさせていただきました。

第一日目は、竹之内康秀さんの発表に続いて、質疑応答、班別懇談、会食(バーベキュー)をしながらの懇談・懇親がありました。

第二日目は、朝食前の朝礼に続いて、田中朋子先生の発表、続いて質疑応答が行われました。

今年度も、今までにない新鮮な顔ぶれで、お道の信心について胸襟を開いて語り合うことができました。



竹之下康秀さん

《竹之内康秀さんの発表》

三十四才の折、長年解決しなかった一身上の問題を抱えていた

とき、ご神縁のあった母の勧めで、鹿児島教会の門を叩くこととなり、四代教会長行徳照真先生のご指導を仰ぐこととなった。間もなく、抱えていた問題が予想に反して早期の解決を見ることができた。これを皮切りに信心生活が始まり、これまでの十四年間で振り返ると、参拝当初照真先生から「あなたの信心はボクサータイプの信心だね、しかも攻撃的なボクサーではなくてパンチをもらっただけもらって、何度もダウンして倒されて、何度も何度も立ち上がる、そっというタイプの信心だね」とのお

言葉通りであった。照真先生亡き後も、喜世子教会長先生、真一郎先生の手厚いお祈りとご教導の中に信心のお育てを頂いてきた。さらに、今年五月の天地金乃神大祭の御用に仕事の繰り合わせがつかず休めないことを真一郎先生に伝えると、日頃にならない強い口調で「大祭の前日、ギリギリまで願ひこみをして手を尽くしてみてはどうか」とのお言葉に、もう一度手を尽くす決意を固めた。さらに、「都合のお繰り合わせを頂き、神米で、瀕死の怪我を負っていた飼い犬が奇跡的に回復をとげるおかげを頂き、この御大祭の参拝・御用が後々の信心の大きな展開につながった。

このようなお話しで、お取次ぎを頂き、ご教導とお祈りのおかげで、信心のないときには予想もできない、助かり立ち行く人生の進め方ができたと、楽しい教会青年会活動の内容も添えてお話しされました。

《田中朋子先生の発表》

「祖父母に喜んで欲しい」という



田中朋子先生

思いで金光教  
学院入学の志  
を立て、お道  
の教師にお取  
り立て頂き、  
祖母の存命中

に教師補命を心から喜んでもらうことができた。祖父が入院して、目の前での食事中に誤飲して具合が悪くなり、快復したものの自責の念を持ち責任を感じていたとき「あんたがいてくれたから助かった」との言葉と、教会御用の中で自身の教師としての姿勢に悩んで平静を装って見舞ったとき「初めの気持ちを忘れたらいかんよ」と適切な助言をもらい、祖父はどんなに自分が大変でも自分のことよりも先ず相手のことをすることを気遣い祈る姿勢を心に刻むこととなった。

とお話しされ、お祖父様のお言葉や生きる姿勢は、お道の教師としての生涯の指針とさえなることが想像されました。また、お祖父様・お祖母様「き後も、温かく厚いご両親の祈りとご教導の中に、信心のお育てを頂いておられ

るお話しにも感心させられ、青年信  
奉者・青年教師のこれからの信心の  
成長の上に、良い信心の糧となった  
ようです。

第二日目の信心発表・質疑応答・  
朝食後の「自然ハイク」は、雨天の  
ため、一キロほど離れた「塩湯温泉」  
まで車で移動することとなり、その  
おかげで生じた時間で資料館職員  
の方の坂本龍馬夫妻が訪れた明治維  
新の熱の入った説明に耳を傾けるこ  
とができました。

「塩湯温泉」では班ごとの課題に  
取り組み、写真を撮り、俳句を作り  
ました。



仙寿の里温泉に戻って、ユニーク

な写真と洒落た俳句  
をプロジェクターで  
投影しての班別発表  
が行われ、最後に参加  
者全員が感想を一言  
ずつ発表して閉会式  
となり、二年後の信心  
の成長と再会を約束  
しての解散となりました。



# 「信行取り組み表」

に取り組ませて  
いただきますよう

鹿児島地方教会連合会から始まった「信行取り組み表」は、大口教会の入木田 覺さんが最初の提唱者です。

今や全国信徒会で取り組まれ、全国の信徒の方の中にまで広まりつつあります。

天地の親神様に、日々の生活の中で御礼を申し上げる信心の稽古に取り組み、真の信心を身に着けたいものです。

加治木教会の御大祭前にも、十月から三か月間取り組ませていただきます。表を印刷した紙は、お広前に準備してあります。

## ご霊神様のお立日

十一月

- 小坂道夫之霊神・9日・平成24年
- 中村光志之霊神・12日・平成19年
- 大重為昭之霊神・13日・平成12年
- 吉屋アイ之霊神・14日・昭和56年
- 瀬尾清博之霊神・17日・昭和49年
- 大重愛子之霊神・20日・平成2年
- 中村ハル之霊神・21日・大正7年
- 桐野ハル之霊神・21日・昭和63年
- 金竹ナミ之霊神・24日・平成19年



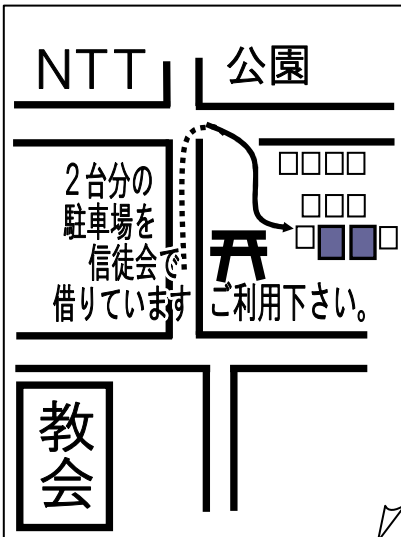
「先祖の霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)までのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

## あしあそ

加治木教会行事記録

10月

- 1 (木) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (土) 矢野サダ子大刀自立日御祈念 10時
- 御本部 天地金乃神 御大祭参拝
- 御本部 天地金乃神 御大祭参拝
- 4 (日) 齋掃御用 10時
- 9 (金) 齋掃御用 10時
- 生神光 月例祭 10時半
- 大神様
- 10 (土) 川内教会65年記念祭 11時
- 11 (日) バンド練習 19時半
- 13 (水) 小倉教会130年記念祭 参拝
- 20 (火) 齋掃御用 10時
- 21 (水) ●月例祭・共励会 13時半
- 22 (木) 御用奉仕
- 24 (土) 人吉教会御大祭
- 25 (日) 宮崎北教会御大祭 (教員参)
- 31 (土) 齋掃御用 10時



十一月十日(火) 午前十時半より  
月例祭に併せて

立教記念祭 奉仕  
新穀感謝祭

十二月三日(木) 出発 午前七時半

甘木親教会

生神金光大神御大祭 参拝

十二月六日(日) 午前十一時

加治木教会

前日 御用奉仕

生神金光大神御大祭 奉仕

※「ご祭典後、講師の先生により」ご教話。

御大祭・記念祭・式年祭

【11月】

8 (日) 枕崎教会記念大祭 11時

14 (土) 多良木教会御大祭 11時

15 (日) 鹿児島教会御大祭 11時

21 (土) 大口教会御大祭 12時

23 (祝) 西鹿児島教会大祭 11時

29 (日) 上荒田教会御大祭 11時

【12月】

3 (木) 甘木親教会御大祭参拝

6 (日) 加治木教会御大祭

23 (休) 甘木親教会 二代親先生二十年祭

教会行事

11月

1 (日) 月例祭・御用奉仕 10時半

3 (祝) 甘木親教会参拝 感話御用(教会長)

8 (日) 枕崎教会記念大祭 11時

9 (月) 斎掃御用 10時

10 (火) ●生神金光大神様 月例祭 10時半

併せて 立教記念祭・新穀感謝祭

11 (水) バンド練習 19時半

青年会 20時半

14 (土) 多良木教会御大祭 11時

15 (日) 鹿児島教会御大祭 11時

17 (火) 若婦人会 13時半

19 (木) 連合会執行部会鹿児島教会 10時半

20 (金) 斎掃御用 10時

21 (土) 大口教会御大祭 12時

22 (日) ●月例祭・共励会 13時半

23 (祝) 西鹿児島教会御大祭 11時

30 (月) 斎掃御用 10時

12月

1 (火) ●報徳月例祭 10時半

3 (木) 甘木親教会御大祭 第二日

4 (金) 甘木親教会御大祭 第二日

5 (土) 御用奉仕

6 (日) ●加治木教会御大祭 11時

9 (水) 斎掃御用 10時

10 (木) ●生神金光大神様 月例祭 10時半

併せて 御本部布教功労者報徳祭

13 (日) 連布教協議会鹿児島教会 10時半

17 (木) 斎掃御用 10時

19 (土) 斎掃御用 10時

20 (日) ●月例祭・共励会 13時半

23 (休) 甘木親教会 安武文雄大人二十年祭

29 (火) 斎掃御用 10時

30 (水) ●越年祭 13時半

十一月二十四日～十一月三十日  
御大祭前 信行期間

ご祈念・研修 午前五時～二十分・午前十時  
ご祈念のみ 午後四時・午後九時

「信行取り組み表」

に取り組ませていただきます。

加治木教会 バンド練習会

練習日 随時連絡します。

これから練習会に参加して  
みなさんでお役に立らせていた  
だきましよう。